



おがわ

学校だより
臨時号
2026年2月20日
町田市立小川小学校
校長 星 彰

2026年度（令和8年度）に向けて

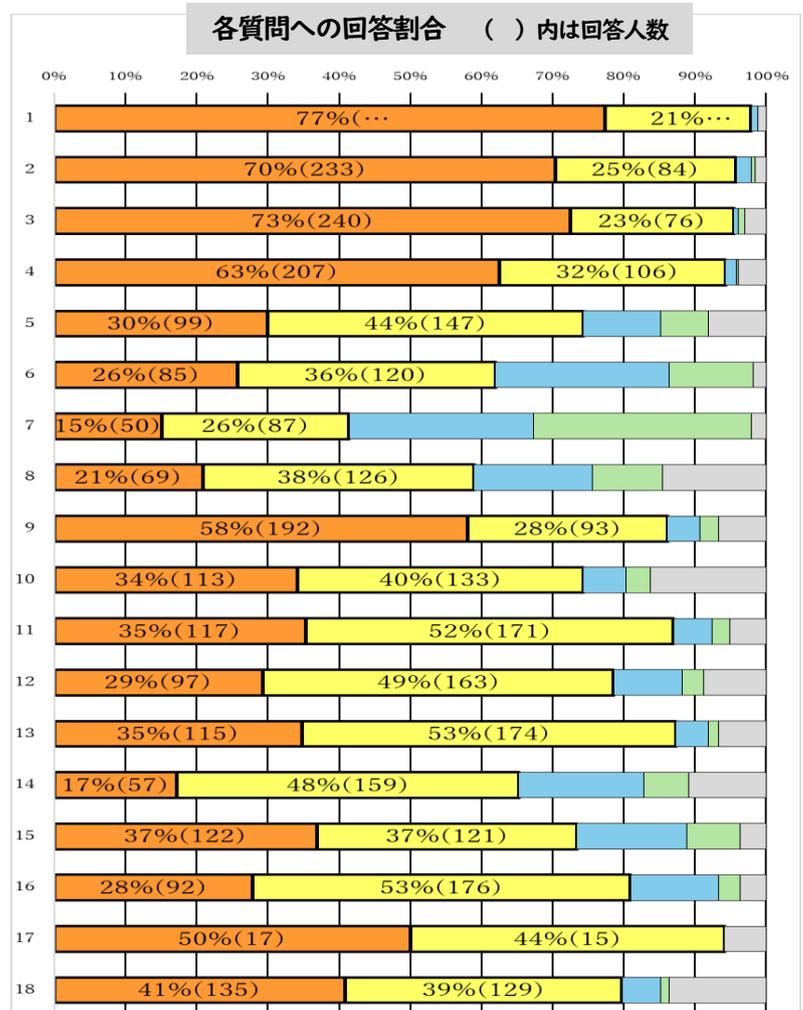
今年度も終わりが迫ってまいりました。今年度の教育活動を振り返るとともに、新年度の方向性について、お伝えします。まずは、12月に実施した「教育活動についてのアンケート調査」の集計結果をご報告し、続いて、考察及び新年度の方向性について記載いたします。

2025年度 保護者対象 教育活動についてのアンケート調査 集計結果【町田市共通項目】

- ・実施期間：2025.12.8(月)～2025.12.25(木)
- ・回答数：331人（児童数414名 家庭数ではなく児童数での回答を依頼 回答率80.0%）
- ・回答方法：4件法

A そう思う B どちらかといえばそう思う C どちらかといえばそう思わない D そう思わない
E わからない・無回答・その他

質問項目と回答数(人)	A	B	C	D	E
1 地域人材の活用	256	68	3	0	4
2 地域・学校の一体化	233	84	7	2	5
3 情報発信	240	76	2	3	10
4 教育活動の公開	207	105	5	1	13
5 基礎・基本の定着	99	147	36	22	27
6 宿題・家庭学習への取組	85	120	81	39	6
7 読書への取組	50	87	86	101	7
8 英語学習への取組	69	126	55	33	48
9 ICTの活用	192	93	15	9	22
10 いじめ・人権感覚	113	133	20	11	54
11 きまりの意識	117	171	18	8	17
12 あいさつ	97	163	32	10	29
13 安全意識が身に付く	115	174	15	5	22
14 ネットマナーが身に付く	57	159	58	21	36
15 運動・スポーツ	122	121	51	25	12
16 食習慣・生活習慣	92	176	41	10	12
17 他校と連携した取組	17	15	0	0	2
18 校内整備・校内美化	135	129	18	4	45



【2025 学校評価】保護者アンケート「ご記載いただいた意見」抜粋

- ・学校からの情報公開も多く、校長先生も率先して保護者と関わる機会を作られていて、とてもオープンな学校だと感じています。
- ・他学年との交流(縦割り班活動)により、低学年への接し方が上手になったと感じる。
- ・ピザ窯活動や「小川のまち」など、子どもが主体的にアイデアを出す姿に感動した。

- ・規範意識や防犯意識等が身に付いてきているように感じます。
- ・習っている内容が定着しているか、学習進度が保護者から見えにくい。
- ・もっと ICT を活用して英語に触れる機会を増やせると良いのではと思っています。

集計結果を受けての考察 新年度の方向性

社会に開かれた教育課程の実現

- 「情報発信」「教育活動の公開」について、肯定的な回答が96%でした。一方「tetoru 配信の量が多く、重要なものわかりづらい。」というご意見もいただきました。重要なものや内容を精選し、より一層伝わる工夫を考えてまいります。
- 「地域人材の活用」の肯定的評価は14%向上し、96%でした。年間80件以上の地域人材にご協力いただいたおかげです。なお、保護者の皆様も「地域人材」に含まれております。今年度は新たに保護者ボランティア(Learning Crew)を募集し、より多くの保護者の皆様にもご協力いただき、感謝しております。今後ともに、児童の学びをより豊かにしていけたらと思いますので、ご協力ください。

「確かな学力の育成」

- 「基礎・基本の定着」、「宿題・家庭学習への取組」の肯定的回答は 70%台にとどまりました。来年度は、自分の課題を把握してその課題解決のために自己調整力をより一層育むことで、基礎基本の定着を図ります。「宿題・家庭学習」については、計画的に見通しをもって取り組む習慣を身に付け、宿題や家庭学習に生かせるように結び付けられる指導を工夫します。また、新たに児童による「手帳の日常的活用」を推進し、夢の実現に向けた「計画力」を育成するとともに、その過程を保護者と共有することで家庭との連携を深めてまいります。
- 「読書への取組」の肯定的回答は 45%でした。読書月間、図書委員会による活動、自分がどれだけの冊数、ページ数を読んだか蓄積を確認できる「読書貯金」等を通して、読書への興味・関心を高めるよう努めましたが、改善の余地があります。読書に魅力を見出せるような取組を模索してまいります。
- 「ICTの活用」の肯定的回答は 86%に達し、特にドリル教材「Qubena」の活用率は町田市内でも上位を維持しています。一方で、具体的な活用状況の共有が十分でないという課題も見えてきました。来年度からは、保護者の皆様による月1回の履歴チェックに合わせて「Qubena チェック」を導入し、ご家庭と学びの履歴を共有したいと考えています。また今後は、AI の適切な活用方法の指導を模索するとともに、今年度の成果を活かした全学年でのテキストプログラミング教育を通して、粘り強さや自己調整力をより一層育んでまいります。

「豊かな心の涵養」

- 「いじめ・人権感覚」の肯定的評価は 80%から 74%(6%減)となりましたが、分析の結果「わからない・無回答」が 16%と高いことがわかりました。実際には 3 か月以上同じいじめが続いている件数は 0 件であり、未然防止・早期解決は機能していますが、学校の取組が保護者に十分に伝わりきっていないことが課題としてあります。町田市教育委員会からは月1回の実施を指示されている「いじめ対応チーム(学校いじめ対策委員会)」を、本校では週1回の頻度で実施しており、今後も問題の早期発見・対応につなげるよう努めてまいります。
- 「ネットマナー」の肯定的評価は 65%に留まりました。本項目は保護者との連携が不可欠であると考えており、新たな策を講じる必要を感じています。これからも、児童を取り巻くネット環境の変化に迅速に対応できるよう、個人面談や「ほっしーカフェ(校長懇談会)」を通じて情報収集を進めるとともに、各家庭の使用状況に応じた具体的な指導法を保護者と共に考えてまいります。

「健やかな体の育成」

- 「運動・スポーツ」の肯定的評価は74%であり、昨年度より 5%向上しましたが、改善が必要です。「小川っ子議会」で児童自らが「体を動かしたくなる環境づくり」を議論する場を設けることも有効ではないかと考えています。児童の自治による新たな手だてを通じ、運動が苦手な児童も含め、全ての児童が体を動かす心地よさを味わえる工夫を推進してまいります。

「小・中学校の連携、校内の整備等」

- 「他校(中学校)と連携した取組」の肯定的評価は94%(6年保護者)でした。全学年では77%と、昨年度より24%向上しました。6年生児童の中学校見学や、教員同士による意見交換会や授業見学が行われました。全学年にも伝わるように、今後も具体的な連携について情報発信する工夫を考えてまいります。